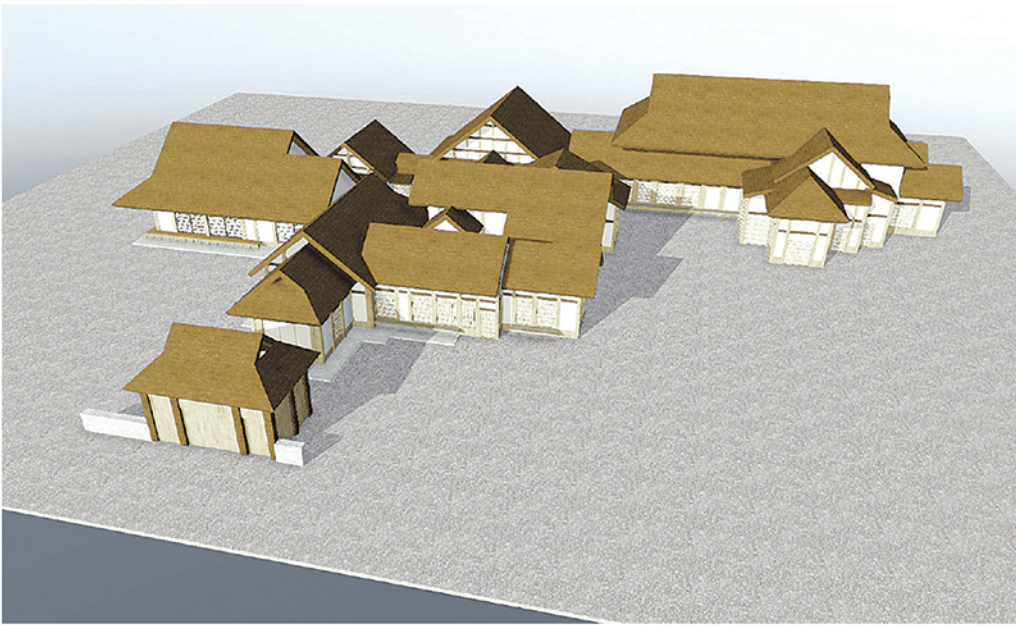


大館城の立体図作成

一般公開へ方策検討



平面図から作成した大館城の立体図（市提供）

職能短大と共同研究

大館市歴史的風致維持向上協議会（会長、北原啓司・弘前大特任教授）は22日、国登録有形文化財・桜櫓館で第11回会合を開き、大館城の立体図作成などについて報告を受けた。立体図は一般公開に向けた方策を検討している。

大館城は天守閣を持たない平城で、1550（天文19）年に浅利勝頼氏が築いたとされる。その後佐竹西家の居城となった。戊辰戦争時の1868年に落城、焼失したため遺構や文献はほとんどない。市は桂城公園（大館城本丸跡）修景基本計画に芝生の平面上で城跡の位置や形を表現することを盛り込んだほか、



共同研究の取り組みなどが報告された協議会（桜櫓館）

秋田職業能力開発短大と共同研究で立体的な見せ方に取り組んだ。

平面図からCAD（コンピュータ）利用設計システムで外観の3D（3次元）画像データを作成。各素材の詳細

が分からず、学生たちは「手元にある図も現物とまったく同じというわけではないので想像力を働かせながら作った」という。AR（拡張現実）を活用し、スマートフォンやタブレットなどのカメラ機能を通して立体的に見ることができるよう式を模索している。

このほか歴史まちづくりの出前講座や景観計画づくり、鳥潟会館庭園の名勝指定に向けた取り組みが報告された。